

令和5年度第1回東北大学医療安全監査委員会報告書

国立大学法人東北大学医療安全監査委員会規程第2条第1項に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

国立大学法人東北大学医療安全監査委員会規程第2条第1項に基づき、東北大学病院における医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり管理者等からの報告・説明の聴取を行い、現状を確認することにより、監査を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、巡視は実施できなかった。

- ・日時：令和5年9月29日（金）9：00～10：30
- ・場所：3号館7階共用会議室
- ・委員長：武田 和憲（社会保険診療報酬支払基金宮城審査委員会審査調整役）
- ・委員：阿部 玲子（東北公済病院看護部長）
- ・委員：佐藤 裕一（弁護士法人杜協同法律事務所代表社員弁護士）
- ・委員：原 忠篤（東北医科薬科大学病院病院長補佐（事務部部长））

2. 監査の内容及び結果

○東北大学病院の医療安全について

I. 医療安全管理に係る体制

以下の項目について説明があった。

- （1）医療安全管理の体制

II. 医療安全推進室の業務

以下の項目について説明があった。

- （1）前回監査時の指摘事項に対して
- （2）医療安全推進室の活動

III. 医薬品安全管理室の業務

以下の項目について説明があった。

- （1）B型肝炎受診勧奨システムの対象拡大
- （2）未承認新規医薬品評価委員会の開催
- （3）未承認等医薬品の使用状況の把握

IV. 医療機器安全管理室の業務

以下の項目について説明があった。

- (1) 医療機器安全管理に係る体制
- (2) 医療機器安全管理室の業務
- (3) その他「医療機器点検の日」実施状況

V. 医療放射線安全管理室の業務

以下の項目について説明があった。

- (1) 医療放射線安全管理室の体制と業務
- (2) 職員研修
- (3) 線量の管理と記録

VI. その他

なし。

3. 総括

最初に医療安全推進室より、医療安全管理体制について説明が行われた。医療安全推進室の中に歯科分室が設置され、副医療安全推進室長兼歯科分室長として歯科医師1名が新たに配置されるとともに、リスクマネージャー会議の中に歯科部門が明記された。今後の活動を期待したい。

医療安全推進室より、前回指摘事項の情報伝達エラー防止対策の報告が行われた。口頭指示の周知状況については、前回重大事項とされた薬剤の単位のルールについて「mg」「ml」「単位」を使用するという項目の周知率がまだ低いため、早急な改善が求められる。

インスリン製剤の処方に関しては、「超速攻型」等の分類を最初に表示し、視認性がよくなり、誤処方等のインシデントは発生していないと報告された。

GRMによる医療安全ラウンドが毎月実施できるようになったと報告があった。7月のラウンドで麻薬・向精神薬の鍵の管理においてルールが逸脱している事例の報告があった。100%ルールを遵守するよう改善いただきたい。

検査に移動する際、患者の取り違え事例が発生し、リストバンド装着のルールが守られていない事が要因という報告があった。その後、医療安全推進室で毎月部署ごとのリストバンド装着状況を調査、報告しているが、リストバンドは医療安全の標準であり、今後の継続調査が望まれる。

リストバンドの素材といったハードの面と認識という両面から防止の取り組みを進めていただきたい。

医療安全の KAIZEN 勉強会の実施について報告が行われた。医師の参加が少ないので参加を働きかけていただきたい。

歯科分室からの報告の中で、誤抜歯の問題について対策が述べられたが、さらに検証しながら対策を進めていただきたい。

医薬品安全管理室からは、免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎対策ガイドラインに準拠した B 型肝炎関連検査チェックを 2022 年 2 月からステロイド薬に拡大したと報告があった。その結果、ステロイド薬が使用されている事例の B 型肝炎関連検査の実施状況が大きく改善されており、今後も引き続き継続して行っていただきたい。

医療機器安全管理室からは、新しい医療機器導入時の研修、特定機能病院における定期研修、新規採用者を対象とする研修など多くの研修を実施しており、受講率も増えてきていると報告があった。今後も継続的な研修の実施を期待したい。

医療放射線安全管理室からは、令和 4 年度医療放射線安全管理研修の受講率が 97.2% と報告があった。非常に高い受講率で素晴らしい取り組みだと思う。今後も質の高い研修を期待したい。

放射線の被ばく量については、患者の被ばくを抑えるとともに熱心な医師ほど被ばくし易い傾向があるため、医療者の被ばくを抑える事も課題であり、患者も医療者も被ばくをしない状況を作ることが重要である。

令和 5 年 10 月 31 日

東北大学医療安全監査委員会

委員長 武田 和憲